

東京駅(新幹線) 1

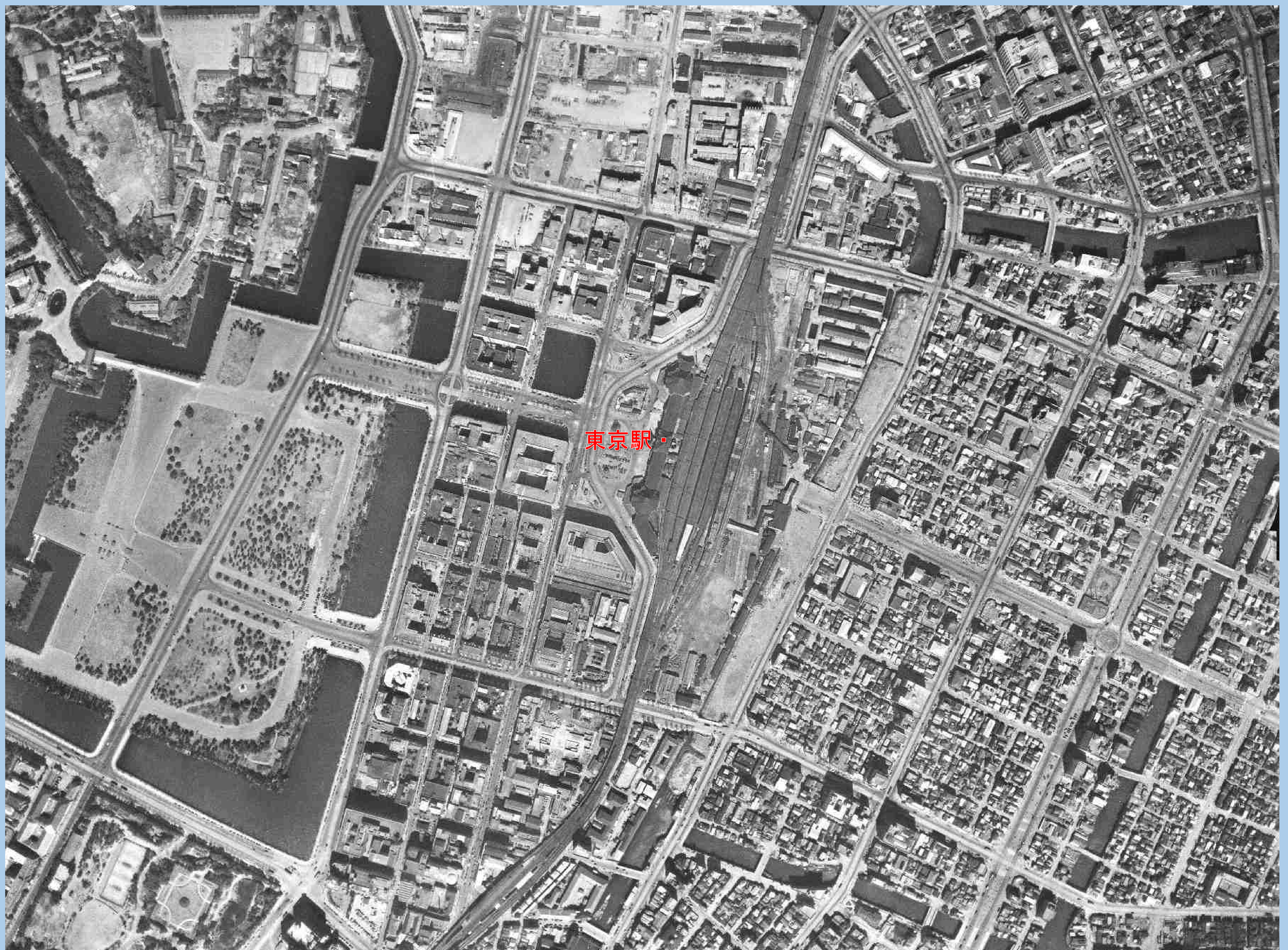
東京駅は、東京において各方面別に分かれていたターミナル駅の間を結んで中央停車場を設置する構想から始まり、1914年(大正3年)に開業しました。その後中央本線の乗り入れや山手線の環状運転の開始などにより利用客は急速に増加していき、昭和初期にはプラットホームなどの増設工事に着手しました。

その後、第2次世界大戦中に空襲により丸の内駅舎を焼失しました。終戦後、丸の内駅舎の復旧が行われるとともに、中止されていた増設工事が再開されました。

1964年(昭和39年)10月1日には東京と新大阪を結ぶ東海道新幹線が開通し、新幹線のターミナル駅として発展しました。

1991年(平成3年)6月20日には東北新幹線が開通し、東北・上越方面へのターミナルともなりました。2012年(平成24年)10月には、戦災で応急復旧したままであった丸の内駅舎の復原工事が完成しました。

1949年(昭和24年)

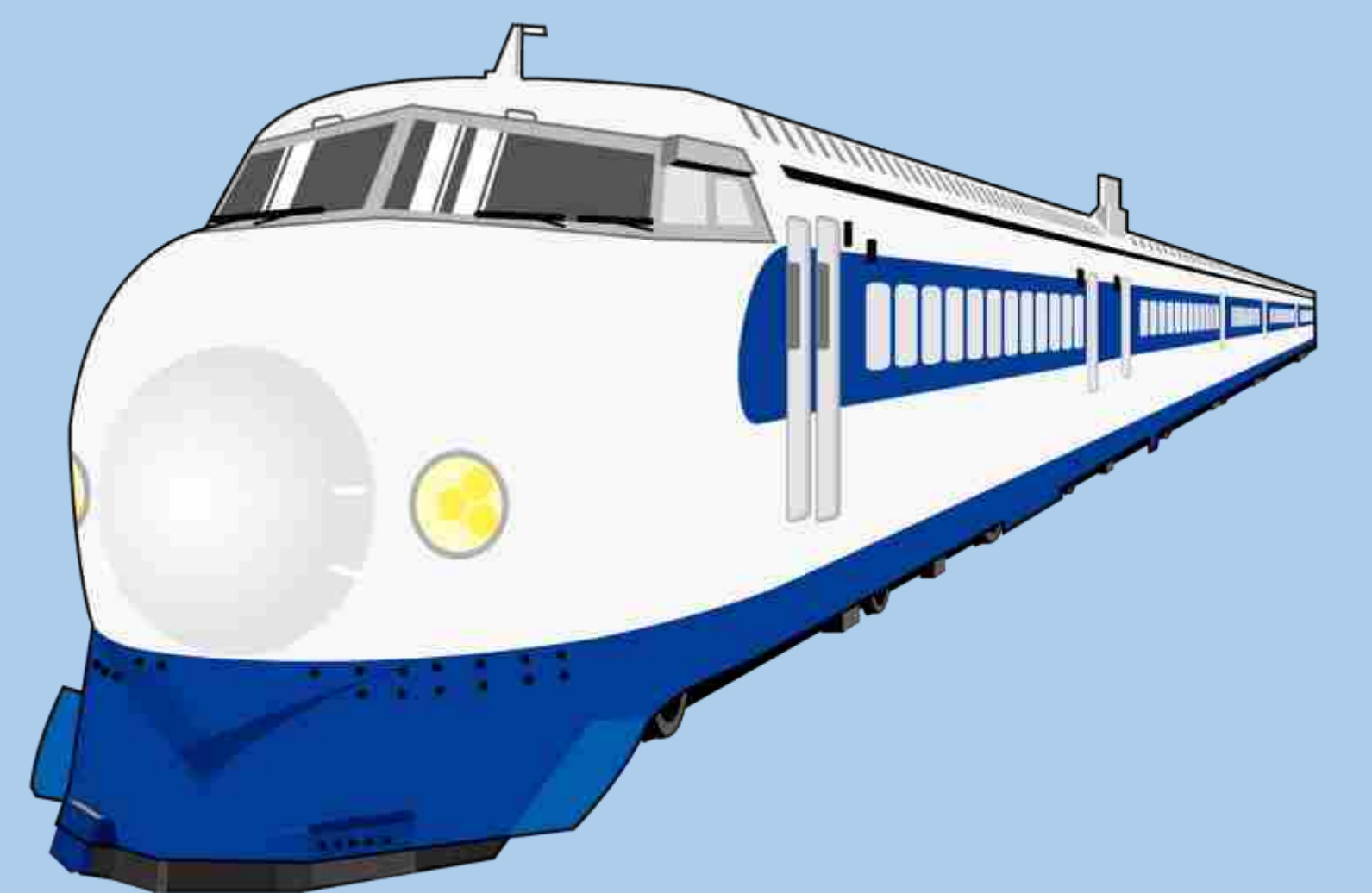


東京駅(新幹線) 2

1966年(昭和41年)



1964年(昭和39年)10月、オリンピック開催直前に東京-新大阪間の東海道新幹線が開業しました。開業時の新幹線ホームは2面3線でした。



現在の東京駅



現在の東京駅は、JR東日本、JR東海、東京メトロの駅であり、JR東日本の在来線と新幹線各路線、JR東海の東海道新幹線、地下鉄丸ノ内線が発着するターミナル駅です。

プラットホームの数は日本一多く、在来線が地上5面10線と地下4面8線の合計9面18線、新幹線が地上5面10線、地下鉄は地下1面2線を有しています。

品川駅(新幹線) 1

1872年(明治5年)に開業した、日本でもっとも古い鉄道駅のひとつが品川駅です。駅名は品川ですが、品川区ではなく港区高輪に所在します。東海道新幹線の品川駅が開業したのは2003年(平成15年)10月で、東海道新幹線の駅の中ではもっとも新しい駅となります。在来線との関係では、東海道新幹線の品川駅の開業により、新幹線から渋谷・新宿・池袋方面や、当線の隣にホームがある横須賀・総武快速各線、さらには京急・都営浅草線・京成沿線や、羽田空港(京急)・成田空港(JR特急「成田エクスプレス」及び都営浅草線・京成線・成田スカイアクセス線直通列車)へのアクセスが改善されました。

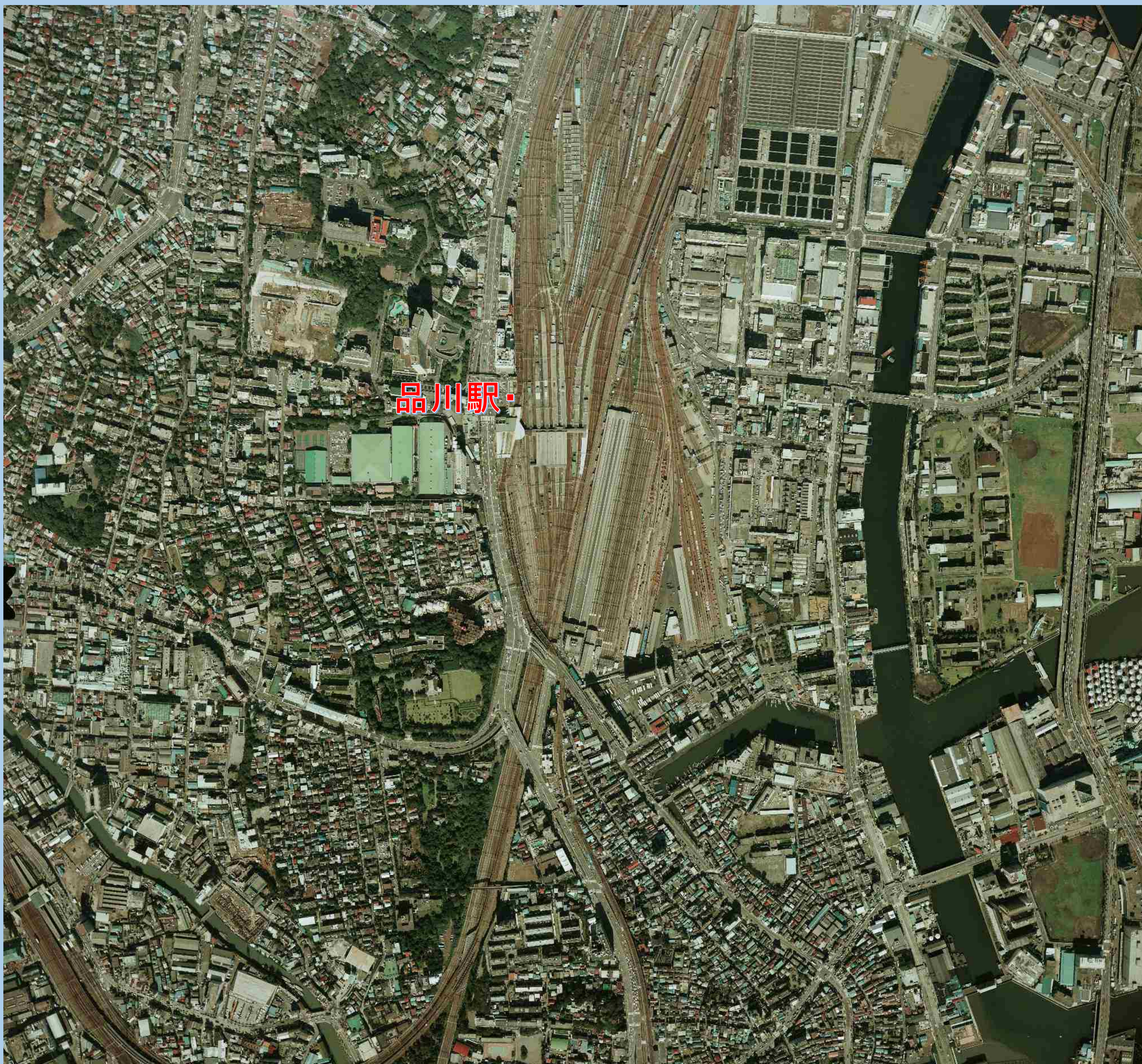
2015年(平成27年)3月14日からは、東京駅を經由して特急「ひたち」・「ときわ」などの常磐線直通列車の始発駅となり、また東北本線・高崎線にも東海道新幹線から直接の乗り換えが可能になりました。

1963年(昭和38年)



品川駅(新幹線) 2

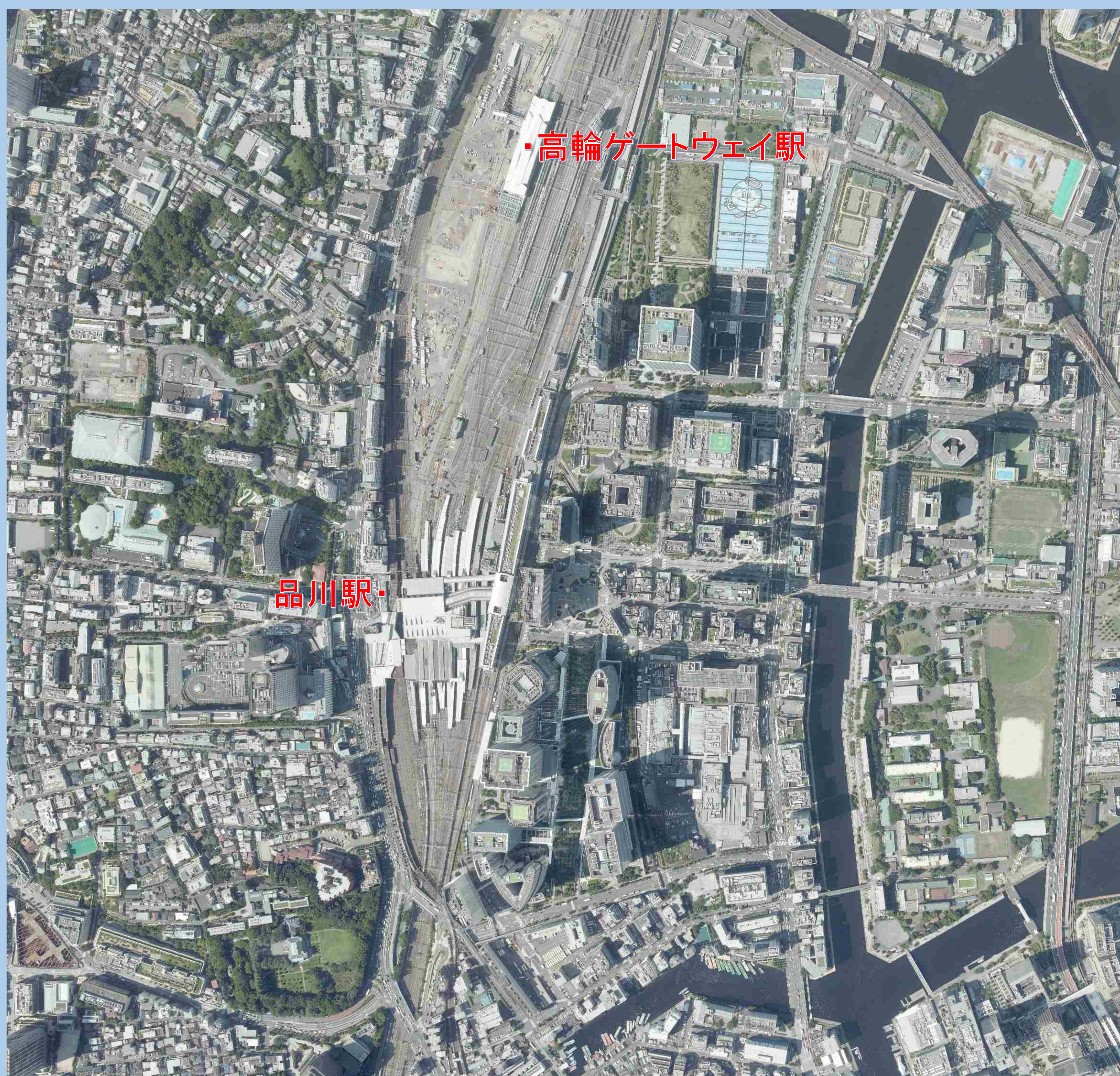
1979年(昭和54年)



東海道新幹線開業時には品川駅は開業していないので、線路のみ確認できます。

品川駅東側の車両基地には、新幹線車両が並んで停まっているのが確認できます。

現在の品川駅



2003年(平成15年)に東海道新幹線の品川駅が開業し、その後、全ての列車で停車駅となっています。

東海道本線と、常磐線を直結し、乗り入れ可能となりました。

2020年(令和2年)には今年開催のオリンピックを見越して、車両基地の再開発を利用し、「高輪ゲートウェイ駅」を暫定開業しました。

羽田空港 1

羽田空港(東京国際空港)は1931年(昭和6年)8月、面積53haに長さ300m幅15mの滑走路1本を設けて開港したわが国初の国営民間航空専用空港「東京飛行場」からその歴史が始ります。

1938年から1939年(昭和13年から14年)にかけては最初の拡張工事が行われ、長さ800m、幅80mの滑走路が2本整備されました。

終戦後、1952年(昭和27年)には、現在の東京国際空港の呼称となっています。その後、滑走路・誘導路・エプロン等の延長、拡張が行われています。

1956年(昭和31年)



羽田空港2

1964年（昭和39年）のオリンピック開催に向けて、滑走路を始めとする空港施設の規模拡充が行われ、1964年（昭和39年）年から1971年（昭和46年）にかけて、3本の滑走路を有する羽田空港の原形ができました。

その後、さらなる航空需要に対応するため、「東京国際空港再拡張事業」が行われ、4本目の滑走路となるD滑走路の他、国際線地区が2010年（平成22年）10月21日より供用開始となりました。

1965年(昭和40年)



2019年(令和元年)



2016年(平成28年)

東京タワー1

東京タワーは1957年（昭和32年）6月に起工し、1958年（昭和33年）12月に完成しました。当時の世界一の鉄塔であったパリのエッフェル塔（高さ312m）をしのぐ高さ333mとなりました。建設場所は「港区芝公園」内に建造されました。

1947年（昭和22年）



東京タワー2

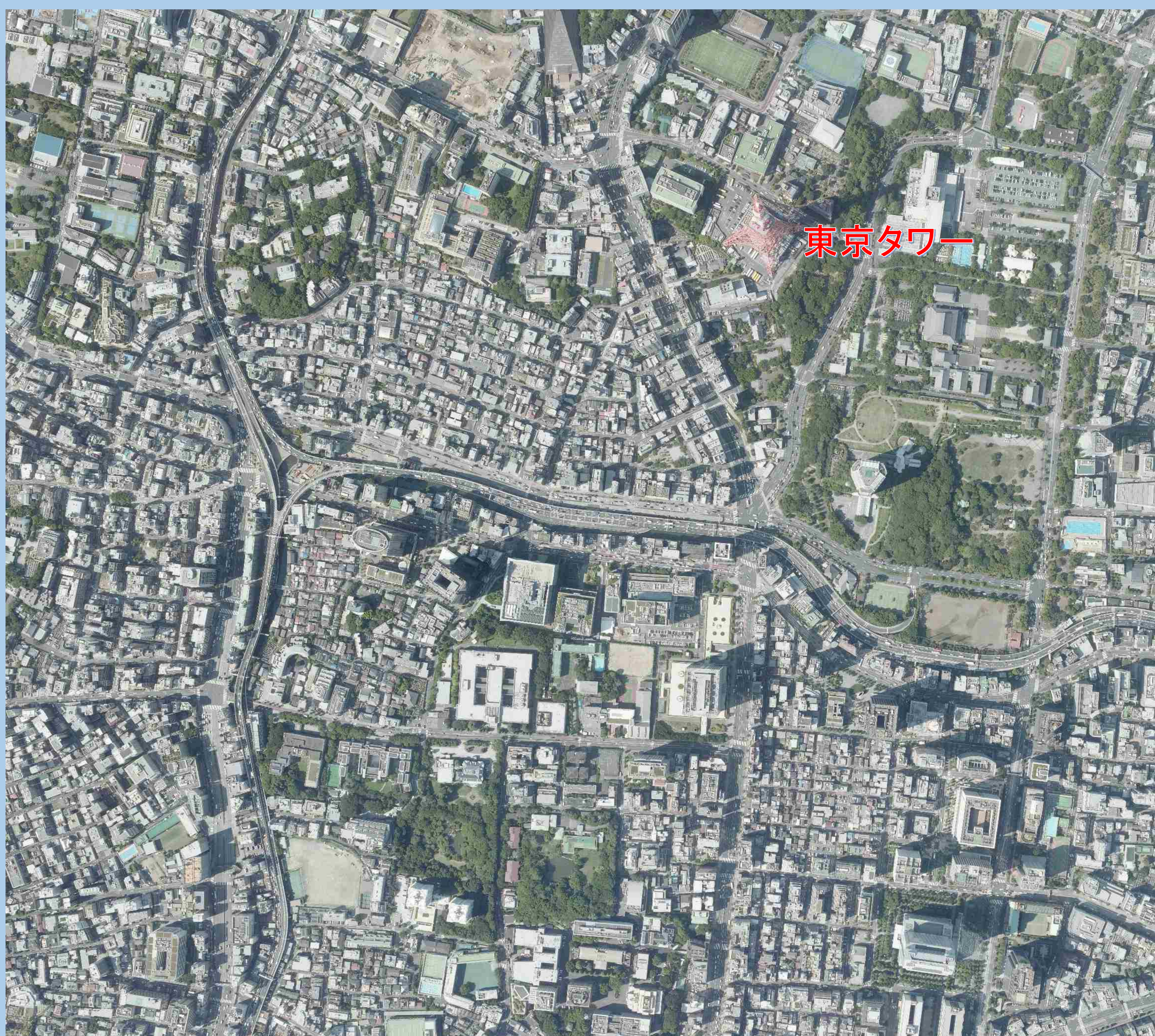
1975年(昭和50年)



オリンピック開催当時は世界一の電波塔ということで、文字通り東京のランドマークタワーでした。



2019年(令和元年)



現在は周辺に高い建物が建ってしまったため、それほど目立った存在ではなくなりましたが、オレンジと白に色分けされたタワーは美しいものがあります。

東京スカイツリー・国技館

戦前の様子



1966年(昭和41年)

蔵前国技館(旧国技館)が正式に完成したのは1954年(昭和29年)9月でした。



現在の様子



東京スカイツリーは、2008年(平成20年)7月14日に着工され、3年半の期間をかけて2012年(平成24年)2月29日に竣工しました。

両国国技館は、1983年(昭和58年)に着工され1984年(昭和59年)11月に完成しました。

今回のオリンピックではボクシングの競技場となっています。

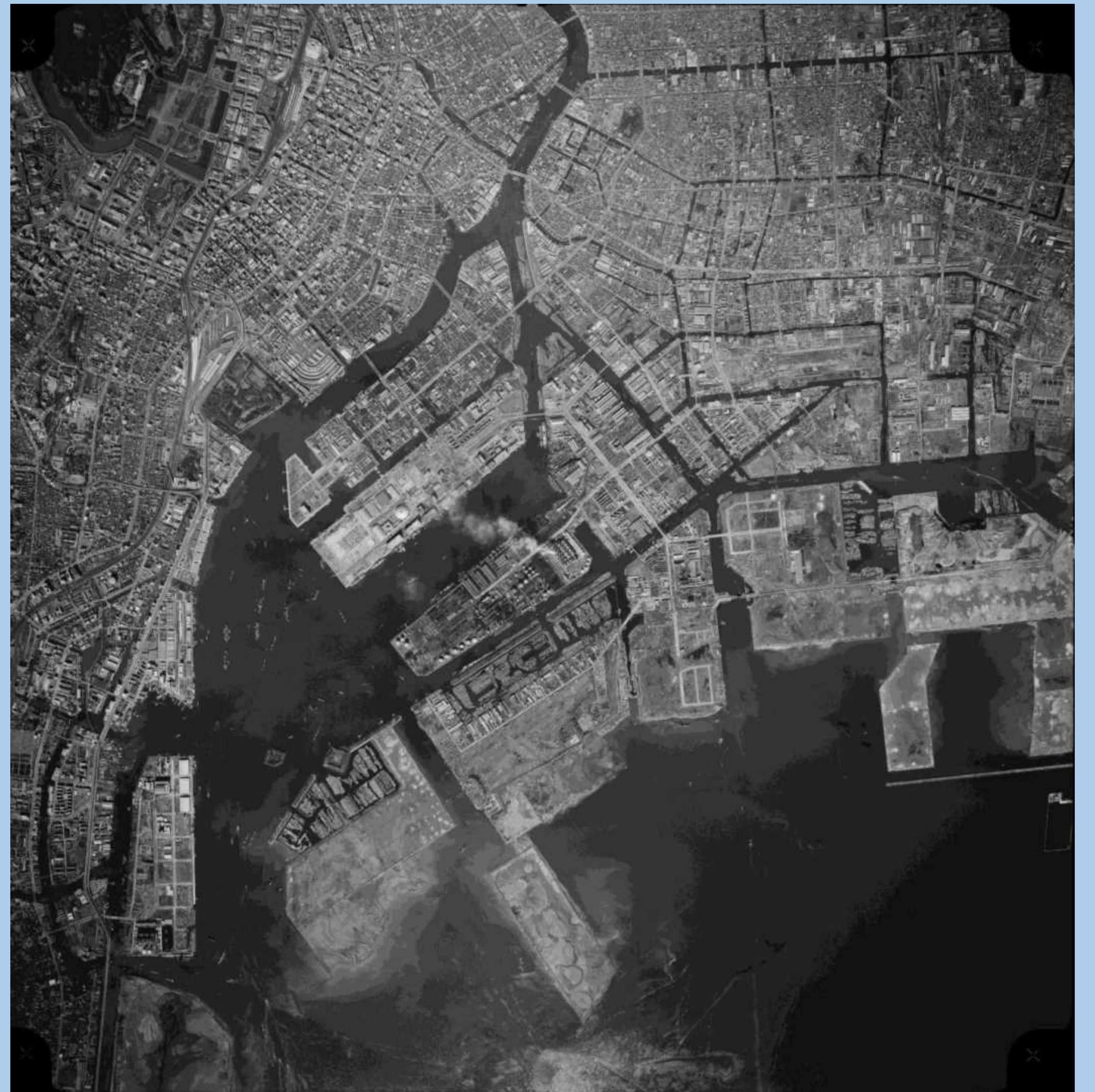
東京湾岸エリア

1946年（昭和21年）



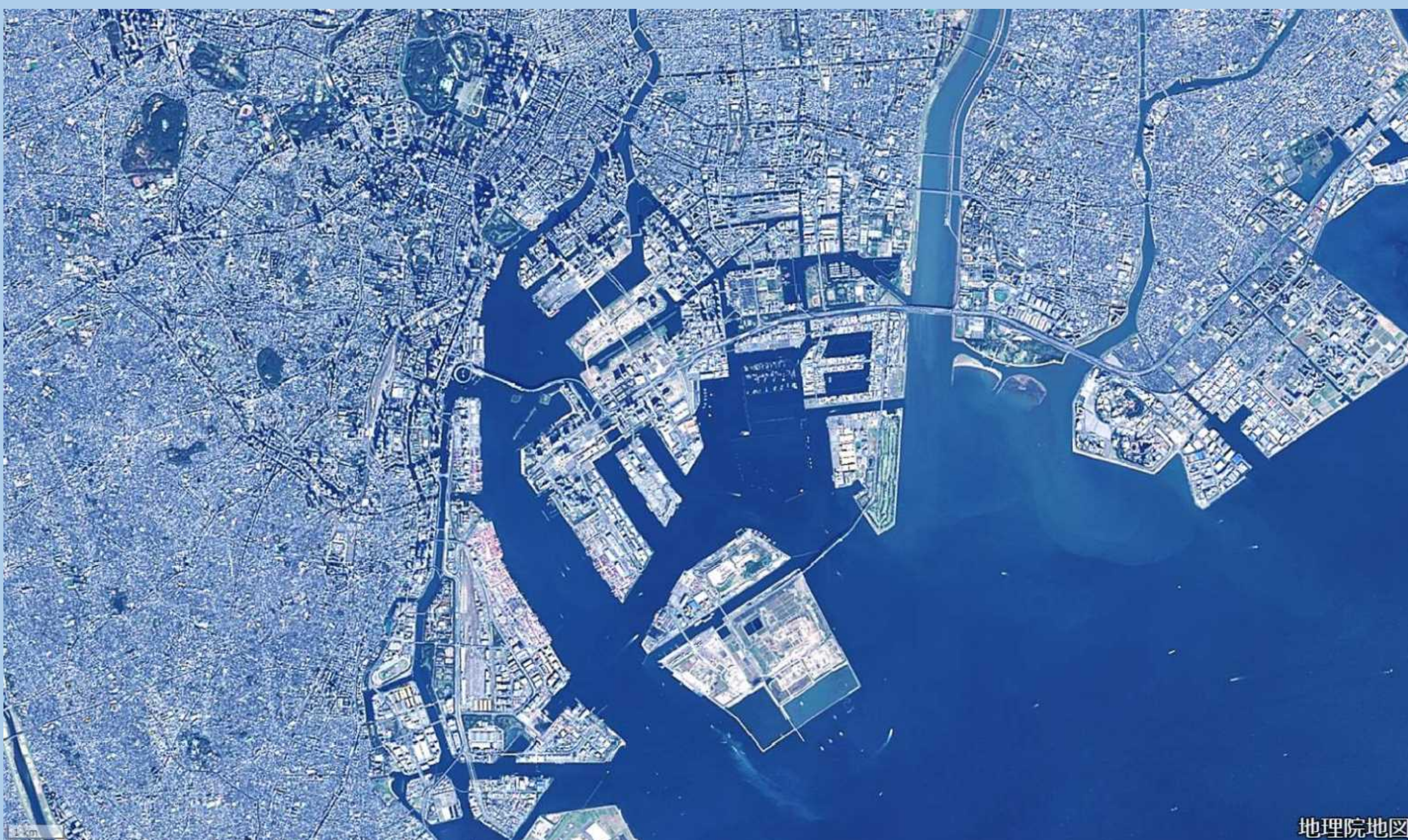
1946年（昭和21年）撮影の空中写真では、湾の一部が埋め立てられているのが確認できます。

1966年（昭和41年）



オリンピック直後1966年（昭和41年）の東京湾の様子です。埋め立てがだいぶ進んでいるのがわかります。

現在の様子



現在の様子を見えます。埋め立て地の面積が増えているのがわかります。この湾岸エリアは、今年のオリンピックで、いろいろな競技会場となっています。